

政友クラブ
成田市議会議員

おだか ゆうか

小高 夕佳

小高夕佳 1992.2.18生
立命館大学政策科学部卒
成田市議会議員(1期目)
新市場整備・輸出拠点化等調査特別委員会
総務常任委員会 広報公聴委員会広報部
全国若手市議の会 関東若手市議の会
成田市消防団女性部 成田市商工会女性部



【発行】政友クラブ 小高夕佳 【連絡先】議会事務局内 花崎町760 TEL.20-1570 FAX.24-0336

令和三年三月定例議会

一般質問



市独自の小・中学校、 遠距離通学判断基準の設定を

Q 成田市のスクールバスの導入基準については、学校適正化配置によるというものでしたが、遠距離通学については義務教育諸学校施設費国庫負担法施行令の小学生は4キロ、中学生は6キロという判断基準に基づいてバス通学を認めている自治体が多い。また、通学路や周辺環境を総合的に判断し基準以下の距離でも市独自の判断基準を設けることで安全な登下校のためにバス通学を認めている自治体もある。市内において現状自転車通学している生徒で通学距離が6キロ以上の生徒の数は？また遠距離通学認定の距離基準を市としてどのように考えているのか？

A 自転車通学をしている生徒で通学距離が4キロメートル以上の生徒数は、全体で315名おり、このうち通学距離が6キロメートル以上の生徒数は、32名となっている。

次に、義務教育諸学校施設費国庫負担法施行令において、適正な学校規模の条件としては、通学距離は小学校にあってはおおむね4キロメートル以内、中学校にあってはおおむね6キロメートル以内とされている。このことを踏まえ、本市では、児童生徒遠距離通学費補助金制度を設けており、通学の距離が4キロメートル以上の児童生徒の保護者に対し、通学費の一部として自転車通学では年額5,000円を補助し、路線バス利用による通学では定期購入券の半額を補助し、経済的負担の軽減を図っている。

意見・要望

他市であればバス通学の対象となる生徒が市内にも32名ほどいる。成田市においても遠距離通学において国の基準は理解しているけれども、4キロ以上の自転車通学の生徒には年間5,000円の補助をおこなっているから大丈夫と考えているようにも感じた。スクールバスとは遠方からの通学、子供達の安全な登下校のために使われるもの。是非市として学校適正化配置によるものでなく、周辺環境や通学距離などを踏まえた独自基準の設定を。また、遠距離通学者補助制度について、導入から30年が経過し子供達を取り巻く環境が大きく変容している。時代に即した新しい補助制度の検討を。

イノシシ・ジャンボタニシなどによる農作物被害について

Q 市内捕獲数の増加からみても周辺に生息するイノシシの繁殖が確実に広がっているように感じられる。捕獲、環境整備、防護柵の3つを総合的に取り組むことが効果的とされている中で、箱わなやイノシシ一頭あたりの駆除単価を引き上げるなど成田市が捕獲を重点的に取り組む理由は？

A 本市は、イノシシの生息地でもある山間部が少なく、出没する地域の環境整備を行い、農地から追い払ったとしても、別の場所に出没し、繰り返し農作物に被害を及ぼすおそれがあることから、捕獲を強化し、個体数そのものを減少させることが、被害の防止に最も効果的であると考えている。

～ 少子化時代の遠距離通学と地域公共交通のあり方 ～

今回スクールバス制度を課題として取り上げた背景には、公津小学校に子供を通学させている地域の方々の声がありました。2021年春より津富浦小学校が大栄みらい学園に統合されスクールバス通学になったことで、公津小学校は市内で唯一コミュニティバスを利用し通学をする地区となりました。しかしながら、公津小学校前にバスが停車するのは朝と夕の二回だけであり、上記以外は通過し停まらない為、乗り遅れた場合子供達は約1キロ先のバス停まで歩きバスを利用している現状があります。これについては令和元年度に公津地区区長連名で改善を求める要望書も提出されています。そこで今回令和3年3月定例議会一般質問において今回の事例を紹介させて頂き、スクールバス制度について賛成、反対と様々な角度から検討させて頂きました。少子高齢化、人口減少という刻一刻と差し迫っている社会変化の中で、平成の大合併、そして学校の統廃合によりスクールバスの導入率は年々増加傾向にあります。少子化の中でスクールバス単体での運行は財政的な面からも難しいということはどの自治体も課題として挙げており、理解はできます。しかしながら、将来を担っていく子供達の教育、そして安全の確保というものは決して外せません。これからの社会はコミュニティバスはもちろん、オンデマンド交通といった様々な

輸送形態サービスとスクールバスの一体的な運用連携なども検討し始める段階にきているのではないかと、担当課を超えた全庁的な対応を求めると意見、要望させて頂きました。今回のコミュニティバスを含む地域公共交通網も課題は多くあります。引き続き子供達の安全と地域活性のため努めてまいります。

※ 学校適正化配置
児童・生徒の大幅な減少を見据え、将来動向を踏まえながら学校の統廃合などを行うこと

※ オンデマンド交通
利用者が事前に予約することでその都度予約にあわせ運行する地域公共交通のこと

公津小学校、八生小学校大規模改修工事始まる！ 太陽光発電設備の導入も

校舎建築30年を迎えるということで、本年7月から来年3月において公津小学校、八生小学校において大規模改修工事が行われます。今回の大規模改修で骨組みを残し、綺麗に生まれ変わる校舎ですが同時に太陽光発電設備システムが導入されます。子供達の環境学習への寄与はもちろん、災害発生時の利活用が期待されます。

「新型コロナウイルス感染症対策」「将来を見据えたまちづくり」

「市民サービスの更なる向上」 令和三年度予算、決まる

本年3月9日から11日において令和三年度予算特別委員会が開催され、予算委員として予算審議を行いました。

令和三年度は新型コロナウイルス感染拡大防止と社会経済活動の両立を目指す中で、一般会計で612億円、特別会計及び公営企業会計を含めた全体で前年度比2.9%減の約929億円の予算案が提案されました。

前年度比約23億円の減収

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、歳入において前年度より市税等で約30億円の減収が見込まれていたことから、全ての事業にゼロベースで見直しをかけた「新型コロナウイルス感染症対策」「将来を見据えたまちづくり」「市民サービスの更なる向上」を三本の柱として予算編成が行われました。個人市民税で前年度比8.2%の減、法人市民税は前年度比58.4%の減収がありましたが、国や県の動向を踏まえた交付金の精査により最終当初予算額は前年度から約23億円の減収となりました。

減収の中でも市民サービスは維持・拡大

本年度予定されている新規事業を一部紹介

▶ 防災用品備蓄事業

避難所におけるコロナ対策として、間仕切りテントを追加購入、全避難所へ配備

▶ 防犯灯維持管理事業

ESCO事業の活用で区が所有する防犯灯もLED化包括的な維持管理へ

▶ 結婚新生活支援事業

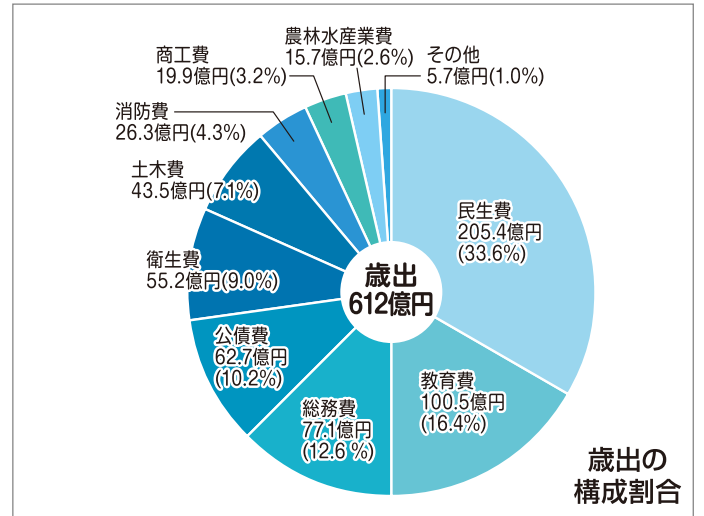
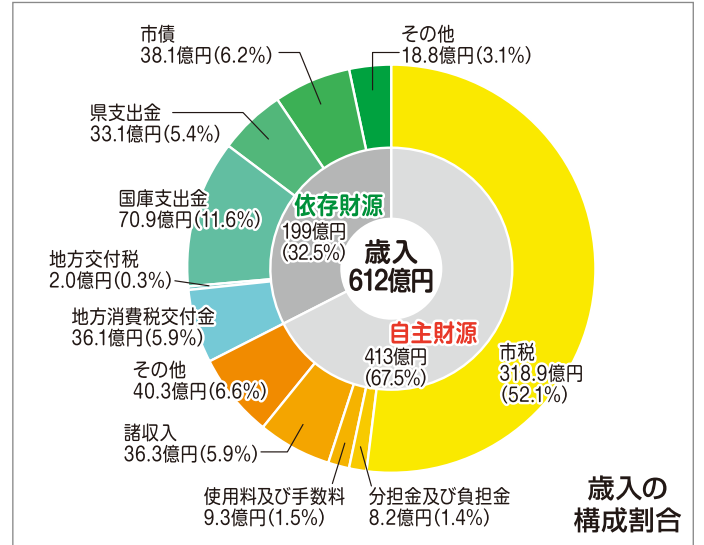
結婚に伴う新居の家賃や引っ越し費用を補助し新生活の経済的負担を軽減、若者支援

▶ 介護人材確保対策事業

2025年に約600人の介護人材が不足すると予測されている成田市、介護職員の定着支援のための補助を始めます

▶ 予防接種事業

冬季の発熱患者を減らすため、今年度より生後六か月から中学生以下と妊婦の方もインフルエンザ予防接種の補助対象とします



本市独自の支援策 第4弾:PCR 検査の拡充!

未だ新型コロナウイルス禍の収束が見えない中、成田市においても昨年度末からクラスターの発生など感染者が急増しました。

緊急事態宣言によってか季節が春になるにつれ感染者数は減少となりましたが、今回市独自の支援策第四弾として、高齢者及び障がい者が利用する通所・訪問事業所の職員を対象としてPCR検査費用を補助するほか、65歳以上の全ての方を対象にPCR検査費用の一部を助成します。

● 障がい福祉サービス従事者PCR検査費用補助事業

● 介護サービス従事者等PCR検査費用補助事業

新型コロナウイルス感染症にかかる本市独自の支援策として、クラスターの発生防止を図るため、県が高齢者入所施設及び障がい者支援(入所)施設職員に対してPCR検査を実施することに合わせ、保健所の行政検査や千葉県が実施するPCR検査の対象にならない職員がPCR検査を受検するための費用を助成

対象期間 緊急事態宣言再発出後の令和3年1月8日から令和3年4月30日までに実施したPCR検査費用 ※ただし、一人当たり一回のみ

● 新型コロナウイルス感染症対策事業

新型コロナウイルスワクチン接種事業について、市民の生命と健康を守るため、ワクチンが供給されしだい速やかに接種が可能となるよう、迅速に準備、ワクチン接種を実施。また令和2年度に実施した高齢者へのPCR検査費用の助成について、対象者を65歳以上の全ての方に拡大しPCR検査費用2万円を助成

対象期間 令和3年4月1日から 検査回数1回

どうなるワクチン接種!?

新型コロナウイルス感染症集団ワクチン接種シュミレーションに参加してきました!

3月定例議会中、3月4日に成田市役所6階で行われた集団接種シュミレーションにエキストラ参加してきました。本市においては4月19日に1000回分の500人分また翌週に1000回500人分の合計1000人分のワクチンが供給される目途が立っており、高齢者施設の入居者から順次希望者が接種後、65歳以上の高齢者へ接種の拡大といったスケジュールが示されています。国が当初想定していたよりも大幅に遅れてしまっているワクチン接種事業。世界規模でみても日本の接種スピードは大きく遅れをとっています。引き続き副作用などには留意しつつスピード感を持った対応を求めています。



シュミレーションにおいてワクチン接種を受ける様子

小高夕佳公式アカウント 情報発信中!



公式LINE



Instagram